

Ⅲ 教科・領域部の取組

1 国語部

(1) 学力向上に向けた国語科の授業の在り方

本研究で目指している「思いや考えを伝え学び合う児童の育成」のためには、主体的・対話的で深い学びの実現が必要不可欠であると考えます。国語部では「伝え合う力」を培うことを目指し、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域の学習に重点をおいて指導に当たってきました。

小学校学習指導要領解説国語編では、「伝え合う力」は「人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら、言語を通して適切に表現したり正確に理解したりする力」と表現されている。国語部ではこの「伝え合う力」を持つ児童の姿を「言語を通して思いや考えを適切に表現したり正確に理解したりできる児童」、「人間と人間との関係の中で互いの立場や考えを尊重することのできる児童」と2つに分け、それぞれの児童の姿を以下のように捉えることから研究を推進してきました。

- 「言語を通して思いや考えを適切に表現したり正確に理解したりできる児童」
 - ・自分の考えを目的や場面に応じて適切に伝えることができる。
 - ・相手の考えを正確に聞き取り、相手の気持ちを受け止めることができる。

- 「人間と人間との関係の中で互いの立場や考えを尊重することのできる児童」
 - ・自己（の考え方）を見つめ、自分の（考えの）特徴やよさが分かる。
 - ・他者の意見や考えを尊重し、対話的な学びを通してそのよさに気付くことができる。

これらの目指す児童の姿を具現化するためには、「言語の力を育てる指導」と「対話的な学びを大切にした指導」の両方を充実させていく必要があると考えました。そこで「話すこと・聞くこと」領域の学習と「読むこと」領域の学習に重点を置いて指導の充実を図ることと、方向性を明確にした対話的な学びに学習過程の様々な場面で取り組ませることを通して「伝え合う力」の育成と学力向上を目指してきました。

(2) 指導の実際

① 「話すこと・聞くこと」の実際

ア 協働による教材研究の柱

・モデルの提示について

対話のためのスキルの定着や対話の深まりを目指し、教師や代表グループによる対話のモデルを提示し、気付いたことや発見したことを基に自分たちの対話や話し合いの様子を振り返らせ、学びの充実を図るようにする。

・共感的に聞く態度の育成について

学年ごとに重点的に育成したい話す力・聞く力を明らかにし（資料1）、聞き手と話し手が互いに意識することで定着を目指す。話し手の意図を汲み取って共感的に聞く態度を育成するために、「感想や質問、新たな意見の述べ方」について段階的に指導する。

イ 実際の指導の様子

・第6学年 「問題を解決するために話し合おう」

学級を2チーム（モデルチーム・モニタリングチーム）に分け、話し合いを行う。議題は「雨の日に室内で楽しく過ごす方法を考えよう」とした。モニタリングチームには教師が示した観点に沿って話し合いの様子を評価し、気付いたことを書き出すように指示をする。



観察・評価



【写真1 モデルチームの話し合いの様子】

【写真2 モデルチームの話し合いを
観察するモニタリングチーム】



【写真3 気づきや思いを共有する様子】

「今の意見は理由がしっかり
述べられていた」

「問題の解決にはつながら
ない取組だと思うけど…」

気づきを共有しながら話し合いの様子を振り返り、問題を解決するための話し合いの約束を類型化して整理し、次回話し合いに生かせるようにした。

・第2学年 「たからものをしょうかいしよう」

「聞き方名人」を目指し、教師の宝物を紹介するモデルスピーチで聞き方の練習をする。聞いたスピーチについて「いいなと思ったところ」「もっと知りたいと思ったところ」をそれぞれ付箋に書き、ペアで共有し、意見を比較する。教師のスピーチは質問しやすいように意図的に情報が不足しているものとした。



【写真4 教師がモデルスピーチを示す様子】 【写真5 モデルスピーチを聞いて疑問を話し合う児童の様子】



「その質問いいね！」
「〇〇ちゃんはなぜこのことを聞きたいと思ったの？」
「それはさっき先生がスピーチで話していたよ？」
「『いつから』という聞き方をするといいんじゃない？」

【写真6 全体共有後のスピーチ発表の様子】

授業の終末は「知りたいことを質問するときに使う言葉」「適切な質問」を全体で共有し、それらを生かして友達のスピーチを聞かせ、学びの成果を実感させるようにした。

② 「読むこと」の実践

ア 協働による教材研究の柱

・発問の工夫について

人物の心情を表す表現や場面の様子を描写する表現に着目しながら発問を吟味する。気付きや疑問を対話的な学びに生かすために、一問一答の形ではなく多様な考えを引き出せるような問い掛けをする。

・中心人物の変容を捉えさせる工夫について

授業者が学習過程を構想する段階で、複数の教員で教材とする物語文を中心人物の変容に着目して読み、物語文全体を、「AがBによってCになる話」という一文にまとめる。まとめた一文は単元の指導計画を組み立てる際に、着目させるべき表現を明らかにしたり、発問の内容を吟味したりするために授業者が活用する。また、3年生以上の学年においては、物語文の大体の内容や主題を捉えさせるために授業の中でも活用し、学習のねらいに応じて児童にも書かせるようにする。

国語部で考えた一文の例	
第2学年 紙しばいをしよう 「ニャーゴ」	A：子ねずみを食べようとしていたたまが、 B：子ねずみに仲間として優しくされたことによって C：うれしくなって食べなかった話。
第3学年 感想をつたえ合おう 「サーカスのライオン」	A：おいぼれたじんざが、 B：男の子の優しさによって C：若いときのような輝きを取り戻すことができた話。
第5学年 朗読で発表しよう 「大造じいさんとが ん」	A：残雪をいまいましく思っていた大造じいさんが、 B：残雪の知恵と堂々とした態度に感動したことによ て C：残雪をがんの英雄と認め、殺さずに逃がした話。
第6学年 人物と人物の関係を 考えよう 「風切るつばさ」	A：生きる気力さえも失ったひとりぼっちのクルルが、 B：自分に寄り添うカララの覚悟に気付き再び飛べたこ とによって C：生きる気力を取り戻し仲間と一緒に力強くはばたい ていく話。

・考えの変容に着目させる振り返りについて

目的を明確にした対話的な学びを通して、自分の考えが深まったり広がったりしたことに目を向けさせて振り返りを記述させるようにする。対話的に学ぶことよさを実感させるために、教師がどのように働き掛けるべきかを検討しておくようにする。

イ 実際の指導の様子

・第4学年 「人物の変化をとらえよう『走れ』」

中心人物の変容に着目して物語文を一文にまとめさせる。単元のはじめと終わりで同じ活動を行い、自分の読み取りの深まりを実感させる。



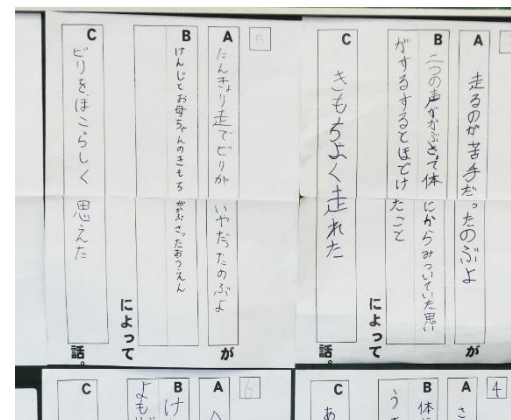
読み取ってきたことが見て分かるように、教室に物語文を拡大して掲示する。掲示物には疑問や気づき、心情の変化等を記入していく。



中心人物の変容について捉えたことを持ち寄って対話的な学びに取り組ませ、物語文を一文にまとめさせる。



グループごとに考えた一文を発表し、共有することで物語文の主題を児童に考えさせる。



・第1学年 音読の指導



家庭学習で取り組ませている音読練習に、休み時間や放課後の時間を活用して学校でも取り組ませるようにした。物語文の音読を練習させる際は、授業時間に読み取った登場人物の心情を思い出させ、どんな気持ちを含めて音読するかを児童に話させてから練習をさせるようにしている。

学 年	話す力	聞く力
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・大事なことを順序よく話す。 ・はっきりした声でゆっくり話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話をよく聞いて質問する。 ・質問をよく聞いてはっきり答える。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・順序を表す言葉を使う。 ・話す事柄を選ぶ。 ・自分の考えとその訳を話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな話か考えながら聞く。 ・話題に沿って注意深く聞き，感想を伝えたり質問したりする。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・事柄を順序立てて話す。 ・声の強弱や間の取り方を工夫して話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し手が伝えようとしていることを考えて聞く。 ・目的に合わせて大事なことを落とさずに聞く。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・質問の目的を考えて分かりやすく例を挙げながら答える。 ・分かったことと考えたこととのつながりが聞き手に伝わるように話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・質問の目的を正しく聞き取る。 ・話の内容が分かるように記号や図，絵も活用してメモを取る。
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の立場について説得力のある主張をする。 ・伝えたい内容や目的に合わせて構成や話し方を工夫して話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理由と意見の両方に着目して聞く。 ・相手の主張と理由について，自分の主張と比べながら聞く。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・意見につながる理由を挙げながら話す。 ・発言の意図が明確に伝わるように話す。 ・意図が伝わるように適切な事例や資料を挙げ，構成を工夫して話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見に対する理由が適切かを考えながら聞く。 ・相手の発言の意図を捉えて聞く。 ・話の構成や話し方の工夫に気を付けて自分の経験と比べながら聞く。

【資料1 各学年で重点的に育成を図る話す力・聞く力】